

早稲田大学 商学部 世界史 講評

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	60分
特徴・その他	2010年度は、記号問題34・記述問題13・論述問題1、2011年は記号問題36・記述問題13・論述問題1。2012年・13年・14年・15年・16年・17年同じで今年も変化はなかった。論述問題の100字も同じ。難易度は全体としては昨年と同等。論述のテーマは2012年まで米国現代史が続き、13年はN I E S、14年はE C S C、15年は米国近代史、16年は米中国交正常化、17年は1970年代の世界的経済危機、そして今年は1990年代以降のインドの政治・経済情勢だった。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	アリストテレス関係史	問A：1-ドラコンの立法(前621)が最古とわかればあとはソロンの改革(前594)→ペロポネソス戦争(前431～404)→コリントス同盟(前337)と無理なく並ぶ。問B：4のどこが誤文か説明するのは難しいが消去法で対処できる。ただプラトンの思想がローマ時代の3世紀になって神秘主義的な新プラトン主義を生み出し、それがキリスト教神学に多大な影響を与えたことを想起すれば、経験主義はありえないと判断できる。問C：3のプロタゴラスはソフィストで「人間は万物の尺度」の言葉で知られる人物。問D：1のオドアケル関係は荒唐無稽な内容で問題外。2-テオドリックが建国したのは「東」ゴート。4-真逆の内容である。問E：2-聖像崇拜論争は8～9世紀が正しい。3-マケドニア朝(867～1056)は9世紀の王朝。ブルガリアを滅ぼしたバシレイオス2世が有名。4-レオン3世が出した聖像禁止令(726)は843年に廃止された。このあたりの正誤判定は頻出事項である。問F：1-プロノイア制は十字軍を要請したアレクシオス1世が導入した。問G：いきなり考え込むと厄介なことになるが冷静に対処したい。アカデミー＝フランセーズ(フランス学士院)はルイ13世の宰相リシュリューの創設になる。となれば16世紀のエラスムス・ラブレール・モンテーニュは不可。正解のラシーヌは仏古典主義悲劇の作家でルイ14世時代に活躍している。問H：1-シャルル9世ではなくアンリ4世が正しい。2-仏(ルイ13世・リシュリュー)はカトリック国であるにもかかわらず三十年戦争では新教徒側を支援した。4-フロンドの乱(1648～53)を鎮圧したのはマザラン。問I：1-マケドニアはアテナイの北にありかつ植民市でもない。2-マケドニアはコリントス同盟の盟主である。3-カイロネイアの勝者はマケドニア。問J：2-ダレイオス3世。イッソスの戦いを描いたポンペイ出土のモザイク画は教科書の定番である。問K：4-正しくはカラハン朝(940頃～1132頃)がサーマーン朝(875～999)を滅ぼした。問L：イブン＝ルシュドは基礎事項。	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
II	中国王朝の東南アジア進出	<p>問A：1-「直轄地には郡県制を、遠隔地には封建制」とは漢の郡国制のこと。秦は郡県制である。2-折衝府とは唐が府兵制運用のためにおいた機関。4-都護府は唐代の占領地行政のためにおいた機関。問B：1-大秦王安敦の使者と称するものが来航したのはベトナム中部の日南郡。2世紀になるとここにチャンパーが成立する。2-徴姉妹の反乱(40)は後漢光武帝時代。問C：高句麗は前1世紀頃の成立とされるが存在感としては三国時代以降の勢力。問D：東南アジア最古の国家扶南が1世紀、チャンパーは2世紀末。真臘は6世紀の成立。ジャワのクディリ朝(928～1222)は圏外。問E：4-少し不自然さを感じる内容だが消去法で対処可能。問F：シュリーヴィジャヤは「パレンバン」から即答可能。問G：4-市舶司は受験世界史の定番。唐玄宗皇帝の開元2(714)年に広州に置かれたのが最初。問H：李朝(1009～1225)がベトナム(当時は現在の北半分)最初の安定した独立王朝。建国者は李公蘊。問I：4-パガン朝(1044～1299)はビルマ最初の統一王朝。元軍の侵入を受けて滅亡。問J：4-マジャパヒト(1293～1520頃)はジャワ最後のヒンドゥー王朝。問K：1-明の朝貢貿易体制は16世紀になると揺らぎ、とくに明の勢力圏周縁に武装した私貿易集団が出現する。倭寇はその典型であり、女真の台頭もその流れで理解すべきである。問L：片務的最恵国待遇と関税自主権喪失は1843年の虎門寨追加条約と五港通商章程、外国人の中国内地旅行の自由は1858年の天津条約の内容。</p>	標準
III	アメリカ合衆国の展開	<p>昨年の大問IIIもアメリカ史。問A：2-パナマ地峡を横断して太平洋に到達したのはバルボアで1513年のこと。彼は「南の海」と命名したがマゼランがつけた「太平洋」という名称の方が普及。問B：ヴァージニア植民地が成功したのはタバコ栽培によるところが大きい。問C：1-銃の大量生産はマイナーだが用語集には記載されている。2-「黒人奴隷の労働力を低減」が誤り。問D：第一回万国博覧会は1851年にロンドンで開催。水晶宮(クリスタルパレス)(現在は大英博物館の植物園)が話題を呼んだ。問E：「奴隷反対」は共和党の主張。問F：ホームステッド法(1862)が正しい。カンザス・ネブラスカ法(1854)は南北対立激化の原因となった立法。ワグナー法(1935)と全国産業復興法(NIRA)(1933)はニューディール立法。問G：4-ライト兄弟の初飛行は1903年。20世紀の出来事なので他のマイナーな事柄は知らなくても安心して解答できる。問H：2-人民党(ポピュリスト党)が正解。問I：4-「製品価格が上昇」が誤り。正しくは「下落」。問J：2-インターネット。あまりにも一般的な知識なのでかえって不安になるかもしれない。問K：1-メキシコからの不法移民問題はトランプ政権が厳しい対処を声だかに叫んでいるもの。きわめて時事的内容である。問L：サブプライム＝ローン本来なら融資が不適格となる層に高利の住宅ローンを組ませ、その債権で金融商品を組んで販売したもの。住宅価格が上昇していれば高利のローンでも転売で利益が出る。しかし住宅価格が下落したため不良債権化し金融危機を誘発した。</p>	標準

番号	出題内容	コメント	難易度
IV	近現代のインド	記述式は難しくない。1:シク教はナーナクが16世紀初めに創始。2:ムガル帝国の公用語はペルシア語。3:税制は「南インド」に着目してライヤットワーリー制と答える。仮にベンガルだとしたら答はザミンダーリー制。4:ガンディーが弁護士として活動した場所は細かい。11:コロンボ会議(1954)も細かい。100字論述は非常に難しかった。昨年のブレトン=ウッズ体制崩壊のような世界的レベルではなく、完全にインド一国の問題。茫然としたまま1字も書けずに終わった受験生もかなりの数にのぼっていると推測される。まず国民会議派に対抗する政治勢力としてインド人民党をあげられるかどうかである。高校教科書・用語集類には登場しない名称である。ではなぜ知っている者が少数でも存在するのか。それは現在のインドの政権与党としてそれなりに注目を浴びているからである。中国とならんで経済成長著しいことは誰でも知っているインドだが、具体的なことになると中国に比べ情報量の少ない、というか関心の度合いが低いのがインド。時事問題の出題といえよう。中国にしてもインドにしてもすさまじい勢いで変化している。こういう動きのある地域・国に関心が向いているかが問われた。	標準

[総合コメント]

マーク式問題のうち正誤判定は得点しやすいものが過半を占めるが一部は手ごわい。用語集レベルの事項は説明文の隅々まで学習しておかないと高得点は望めない。正誤判定問題の一本釣り正答は困難でも消去法で何とかなる問題も多い。粘り強く正解に迫る根気が求められる。また、類似するテーマの出題が目立つ。かつて第二次英仏戦争は3年連続して出題されている。米国がらみの国際経済問題も定番である。最後の100字論述は事実関係を羅列すればある程度得点できるはずだが、今年の1990年代以降のインドといったテーマだと、文章を組み立てるために必要な事実関係や固有名詞そのものを知らないという最悪の状態もありうる。受験生泣かせの酷い出題だと嘆く向きもあるだろう。しかしここは前向きに考えるべきである。様々な矛盾をほらみながらも成長めざましいのが中国とインドであり、一昔前に比べれば政治や宗教問題・社会問題などの情報が日本にも入ってきている。学校ベースの受験勉強では追いつかない部分でもある。早大商は、受験とか学校という枠をこえてネットやマスコミなどを通じて世界(商なのでとくに経済面)の動きについていけている人物を探しているのである。早大商を本気でめざすならそういう人物になることを意識してはどうだろうか。